

## 令和4年度第3回千代田区商工振興連絡調整会議 議事録

- |       |  |
|-------|--|
| ■日 時  | : 令和5(2023)年3月20日(月) 14:00~15:15   |
| ■会 場  | : 千代田区役所 8階 第1、第2会議室   |
| ■出席状況 | : 出席委員 11人   |
| ■千代田区 | : 地域振興部長、商工観光課長、産業企画担当課長、商工振興担当係長、商工振興係長、経営相談・融資担当係長、産業企画担当係長、経営相談・融資担当係長、観光・地方連携係担当係長、事務局2名 |
| ■議 題  | : (1) 千代田区産業振興基本計画の完成について(報告)<br>(2) 令和5年度実施事業について<br>(3) その他                                |

(議事要旨)

### 1 議事

#### (1) 千代田区産業振興基本計画の完成について(報告)

<(1)について事務局から説明>

- (特に意見なし)

#### (2) 令和5年度実施事業について

<事業の全体、新規事業について事務局から説明>

##### 【商店街等産学連携促進事業】

- 本事業に関して、11大学をはじめとした各学校には周知されているのか。
  - 区内学校を対象とし、11大学だけでなく、高校や専門学校等も対象としている。今後11大学も含め各学校に対し、周知活動していきたい。千代田区商店街連合会、千代田区商店街振興組合連合会に加入している商店街の受入体制状況も調整しつつ、周知を行っていく。(商工観光課長)
  - 商店街連合会側がリードして進めていくイメージか。
  - その辺りも含め調整させていただきたい。例えば、これまでアプローチできていない学校については、事務局が手伝えるところは手伝い、これまで関わりのある学校に対しては商店街から直接繋がっていく方法が良いと考えている。ニーズに応じたアプローチをしていきたい。(商工観光課長)
  - 既に連携している大学と話を進めて問題ないのか。千代田区商店街連合会で全ての学校と連携を行っていくのは難しいため、どのように取組みを広げていくのか検討が必要かと思う。商店街だけでなく、区商工業連合会とも連携する方法もあると思う。
  - やりたいことが具体的にある団体の場合、一緒に取り組む大学を探すやり方もあるし、特に具体的にやりたいことが決まってない団体の場合はプロポーザルのよ

うな形で連携する学校を集めるようなやり方で進めても良い。(商工観光課長)

- さくらまつりのガイドブックにおいて大学生と連携して実施している。(千代田さくら祭り公式ガイドブック P16～) このように、既に実施している事業について、本事業の対象とできるのか。
  - ▶ 新規事業が対象となっているため、基本的には既存の取組みは対象外となっている。ただし、既存の事業対象のグループでも新規性がある取組みを実施すれば本事業の対象となる。(商工観光課長)
  - ▶ 新規性については、審査をするのか。
  - ▶ 今の段階では審査会を設ける予定はない。基本的に新規性については、関係課で判断する予定である。要綱は作成中だが、イベントを実施する場合、イベントそのものだけでなく、情報発信のためのHP 見直し等に係る経費等も対象としていけるよう考えており、1つの事業だけでなく、複合的な事業においてもカバーできるようにしたい。新規性については、既存のイベントの冊子で全く別の切り口の内容になる場合等も支援対象となる予定。(商工観光係長)

#### 【産業コミュニティ形成支援事業】

- 新事業の説明にもあるエコシステムという言葉について、“エコ”という言葉はどういった意味か。計画本編の 31 ページの図を見ると、概要については理解できる。しかし、資料の中で“エコシステム(コミュニティ)”と表現されている部分があり、概念図とは異なった意味のように見える。
  - ▶ エコシステムについて理解がしにくい言葉のため、議会でも顔の見える関係性という言葉で置き換えたものである。一人の起業家が自立してスタートアップとして事業化するだけでなく、他の起業家と協力し、新しいアイデアによって事業を起こすことも注目されている。人のつながりによる価値創出が重視されていることから、“コミュニティ”という表現をした。“エコ”という言葉は何かの略称ではなく、生態系を意味する“エコシステム”という英単語で一つの言葉となっている。(産業企画担当課長)
  - ▶ 千代田区には、都内のスタートアップの約15%が集約しているが、残念ながら自社と同じようなスタートアップがどこで事業をしているのかわからない状況も見受けられた。企業会のようなつながりの中で、関係性を作ることで、千代田区産業の成長力となると考えている。(産業企画担当課長)
- スタートアップを区外から呼び込む、区内に新規で生み出すということではなく、既存のスタートアップに対する支援を行うというのは良い考え方だと思う。既存のスタートアップを支援することで、結果的に新規のスタートアップを呼び込むことにもつながる。「顔の見える関係性づくり」のイメージができなかったため、具体的なことが

決まっていたら教えていただきたい。

➤ 創業する際、コワーキングスペースでアイデアを練っているスタートアップも多い。民間施設だけでなく、東京都の大規模施設にも起業家の卵が多くいる。そういった起業家の卵の方々や既存のスタートアップの方々に対し、Web、チャット、SNS 等で千代田区での取組みを周知し、コミュニティに入ってもらいたい。例えば、セミナーや勉強会も、オフライン、オンライン双方で実施していき、コミュニティを形成していきたい。(産業企画担当課長)

● 最初に神保町地域のスタートアップにおいて実施するということが、具体的にはどのような想定か。

➤ 今年度調査事業において、番町、麴町、和泉橋など区内各地域のスタートアップについて調べたが、大丸有だけでなく、他地域でもスタートアップに関する支援を進めた方が千代田区全体のスタートアップ振興になるということがわかった。神保町は、従業員 100 名以上の大規模のスタートアップがいることがわかったため、これからのコミュニティ活動を中核として担っていただけるような可能性が高いと想定している。そのため、千代田区全域で本事業を進めていく予定であるが、あくまで説明上、まずは神保町としている。(産業企画担当課長)

#### 【レシートを活用した区民生活応援事業】

● 千代田区商店街連合会の理事会の中で話を聞くと、レシートを提供していない商店もあった。顧客から依頼があったときに領収書を発行している商店もある。本事業では、レシートのみが対象なのか。

➤ レシートアプリを活用する予定である。その仕組みの性質上、レシートでないと対応が難しい。(商工振興課長)

● 本事業では区民の生活支援が重視されているようだが、秋葉原は、区民より観光客など他の地域からの来街者も多い。対象は、区民のみか。商店街や団体等に加入していないお店でも、アプリ等を入れるだけで支援を受けられるのか。

➤ 昨年度、区民だけでなく、区外の方も使える QR コード決済を活用した支援を区内中小企業に限って実施したが、区民にはメリットが大きくなかった。今回は、区民による区内の消費を促進し、コストがあまりかからない仕組みとして考えている。(商工観光課長)

➤ 本事業は、区民がレシートを読み取るアプリを利用する。まず、区民かどうかを eKYC という仕組みで本人確認をオンラインにて実施する。免許証やマイナンバーカードを画像で読み込み、AI 等によって区民かどうか判定する。併せて区内店舗のレシートかどうかを判断するが、レシート画像を読み込んで同じく AI によって識別する。事業第 1 弾については、区内事業所における買物全てが対象となるた

め、レシートを読んで店名や住所等から該当するか判断を行う。ただし区内で買物したレシートがあっても区内のお店として判断されない場合は、対象外となってしまう場合もある。こういったレシートが対象となるのか、あらかじめ区民に説明をする予定である。また事業第2弾については、地元企業を対象とするため、事前に参加申し込みを行った事業者のレシートを登録することで判断する予定である。(商工観光課長)

- 高額商品を買ったとしても、一人当たり上限1万円程度であれば、そこまで大きく問題がないと思う。

#### 【SNS 広報大使の任命】

- “全国から” インフルエンサーを募集するとあるが、千代田区のことを知らないで千代田区の発信をするのは難しい。全国のインフルエンサーがどのようにして千代田区のPRをしていくのか、また広報大使が選ばれるスケジュール感や、オーディションの内容について具体的に教えていただきたい。
  - インフルエンサーのオーディションは、千代田区の魅力発信を課題とし、その反応によって評価を行い選抜する予定。スケジュールは、書類審査で45日程度、オーディションには2か月はかかると見込んでおり、インフルエンサーの選抜には、半年くらいかかると考えている。(観光・地方連携担当係長)
  - 具体的な事業の進め方については、今後観光協会で議論していく予定である。

#### (3) その他

##### <さくらまつりの開催について事務局から説明>

- (特に意見なし)

#### 2 事務連絡

#### 3 閉会

座長) これにて閉会します。長期間にわたり活発なご議論をありがとうございました。